

**製品名: DDR2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80607**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	96.7kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DDR2
別名	TKT; MIG20a; NTRKR3; TYRO10
遺伝子 ID	4921.0
SwissProt ID	Q16832
免疫原	大腸菌で発現したヒト DDR2 の精製された組み換え断片。

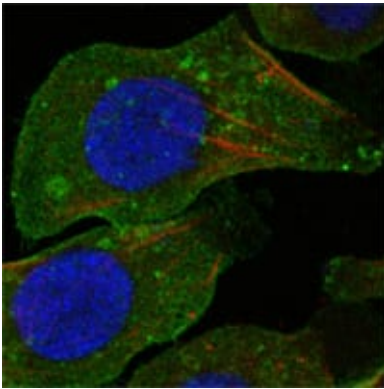
**背景**

DDR2 (ジスコイジンドメイン受容体ファミリー、メンバー 2) は、真核生物における最大のタンパク質ファミリーの 1 つです。このファミリーは、チロシン (PTK) またはセリン/スレオニン (STK) キナーゼ触媒ドメインの配列比較に基づいて、8 つの主要グループ

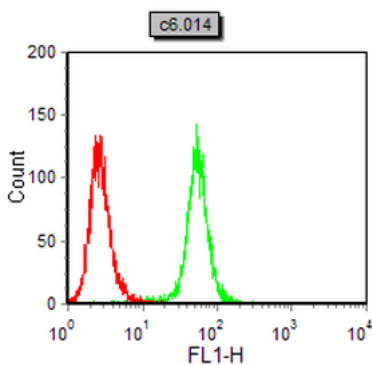
に分類されています。受容体チロシンキナーゼ (RTK) は、細胞とその微小環境とのコミュニケーションにおいて重要な役割を果たします。これらの分子は、細胞の成長、分化、および代謝の調節に関与しています。いくつかのケースでは、RTK が膜を介してシグナルを伝達する生化学的メカニズムは、リガンド誘導性受容体オリゴマー化とそれに続く細胞内リン酸化であることが示されています。この自己リン酸化は、細胞質標的のリン酸化だけでなく、シグナル伝達の多面的効果に関与する他の分子との結合にもつながります。RTK は、細胞外領域、膜貫通領域、および細胞質領域からなる三者構造をしています。この遺伝子は、RTK の新規サブクラスのメンバーをコードし、第 VIII 因子様ドメインを含む明確な細胞外領域を有しています。5' UTR における選択的スプライシングにより、同一のタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。

## 研究分野

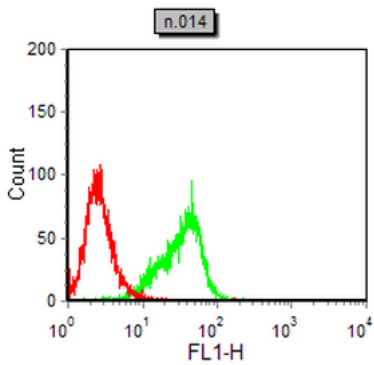
## 画像データ



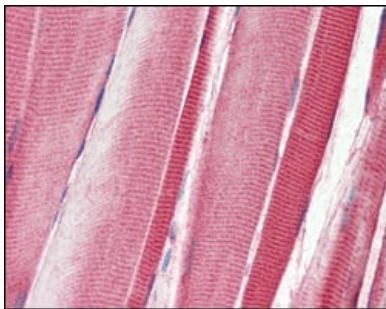
DDR2 マウス mAb (緑) を用いた A549 細胞の共焦点免疫蛍光染色。赤: アクチンフィラメントは DY-554 ファロイジンで標識されている。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



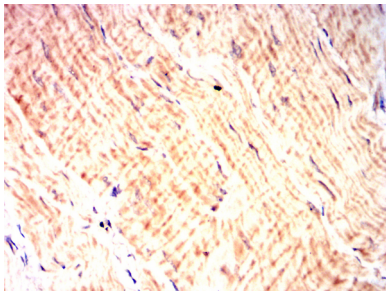
DDR2 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した C6 細胞のフローサイトメトリー分析。



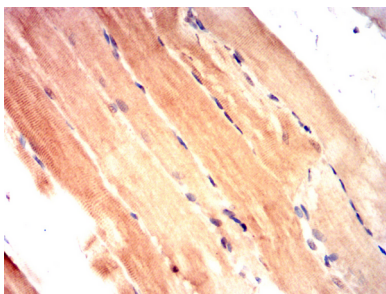
DDR2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した NIH3T3 細胞のフローサイトメトリー分析。



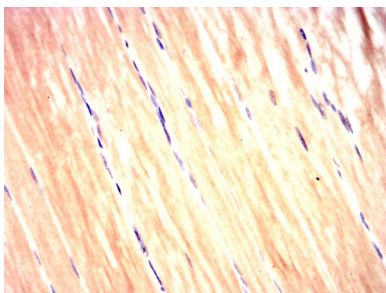
DDR2 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学分析。



DDR2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋マウス筋肉の免疫組織化学分析。



DDR2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ラット筋肉の免疫組織化学分析。



DDR2 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ウサギ筋肉の免疫組織化学分析。